九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

父親の育児参加に関する一考察 ： 父親の育児行為に関する意識を中心に

山瀬, 範子
九州大学大学院博士後期課程1年

https://doi.org/10.15017/3685

出版情報：飛梅論集. 5, pp.119-134, 2005-03-18. 九州大学大学院人間環境学府発達・社会システム専攻教育学コース
バージョン：
権利関係：

九州大学大学院教育学コース院生論文集，2005，第5号，119－134頁
Bull. Education Cource, kyushu U., 2005, Vol.5, pp119－134

父親の育児参加に関する一考察

―父親の育児行為に関する意識を中心に―

山　瀬　範　子*

Ⅰ．問題と目的

1999（平成11）年、厚生省(当時)が「育児をしない男を、父とは呼ばない」というコピーのポスター、テレビCM等を作成し、父親の育児参加を呼びかけるキャンペーンを実施した。このキャンペーンは、広く論議を呼び、これをめぐって民間団体主催のシンポジウムが開催され、また、国会においても賛否をめぐって活発な議論が展開された。育児とは、母親によって担われるものとされてきた。しかし、今、父親にも積極的に育児に関わることが求められているのである。

では、父親はどのように育児に関わるべきであるのだろうか。父親の育児参加の方法に関しては、主に2種類の言説がある。第一に、従来いわれてきた「父親」として育児に関わっていくべきであるという言説。これは、父親の役割は家族を統合し、理念を掲げ、文化を伝え、社会のルールを教えることにあるとし、権威を備えた父親として育児に関わることを求める言説である（林　1996）。第二に、父親も母親も関係なく親として関わるべきであるという言説。父親・母親に関係なく親の子どもに対する役割は扶養、社会化、世話の3種類の役割[1]に集約されるとし、これらの「親」としての役割を両性が担うとする言説である（舩橋　1996）。前者が父親独自の役割を強調するのに対して、後者は父親・母親に関係なく「親」としての役割を両者が担っていくことを重視する。このように父親の育児への関わり方については、互いに矛盾を含んでいるともいえるような様々な言説があり、錯綜した状況にあるといえよう。このような状況を反映するかのように実際に育児を行っている父親たちも自らが育児においてどのような役割を担うべきなのか悩み、不安感を抱いている（朝日新聞社　1999）。

このような父親の育児参加をめぐっての錯綜した状況を整理するために、本研究は、実際に育児を行っている父親・母親の意識の上において、どのような行為が父親の育児行為であると捉えられているかを明らかにすることを目的とする。

Ⅱ．分析の視点

では、父親の育児行為とは具体的にどのような行為を意味するのだろうか。これについては①過去の研究において研究者が父親の育児行為をどのように調査してきたか、②政策の中においてどの

*九州大学大学院博士後期課程１年

ような行為が育児行為とされてきたのか、③育児雑誌の中でどのような行為が育児行為と考えられているのかという3つの視点から捉えていく。

(1) 父親の育児行為に関する調査・研究

父親の育児行為は、父親の育児参加に関する調査・研究の中で、独立変数あるいは従属変数として捉えられてきた。父親の育児参加に関する主な調査における、父親の育児行為に関する項目をまとめたものが、「表1　父親の育児行為に関する主な調査・研究」である。

表1　父親の育児行為に関する主な調査・研究

著者名、年度、論文または著書名	育児行為項目（回答型式）
牧野カツコほか　1996 『子どもの発達と父親の役割』	「幼稚園、保育園に子どもを送っていく(迎えにいく)。」「子どもと一緒にお風呂に入る。」「子どもと一緒に夕食をとる。」「子どもの遊び相手になって一緒に遊ぶ。」「子どものその日の出来事をきいてやる。」「子どもの身のまわりの世話をする。」「子どもの疑問にきちんと答える。」「いけないことをした時には叱る。」 （いつもしている、ときどきしている、あまりしていない、ほとんどしていない） 「あなたは、日頃お子さんとどのくらい一緒に過ごしていらっしゃいますか。平日と休日の場合についておよその時間をお答えください。」（□時間□分程度）
大日向雅子・ 新道幸恵ほか　1994 『父性の発達 －新しい家族づくり－』	炊事、洗濯、日用品・食料等の買い物、掃除、近隣の会合への出席、子どもの排泄の世話、子どもの食事の世話、子どもを風呂に入れる、子どもの遊び相手になる、子どもを寝かせる、子どもの衣服の着脱の世話、子どもの病気のときの看病、子どもを検診や予防接種に連れて行く、子どもに本を読んで聞かせる、子どもにあいさつを教える、子どもに礼儀・習慣を教える、子どもの本やおもちゃの購入、保育園・幼稚園の送迎、保育園・幼稚園の行事への参加、子どもの今後の教育について考える （いつもしている、ときどきする、まれにすることがある、全くしない）
土谷みち子　1992 「父親の生活実態と父子の かかわりについて」 『家庭教育研究所紀要』14 中野由美子　1992 「3歳児の発達と父子関係」 『家庭教育研究所紀要』14	遊び行動＜「休日遊びを楽しむ」「身体を使う遊び」「子のレベルで遊ぶ」＞、接近行動＜「平日顔合わせの努力をする」「母親抜きでの父子接触」「子をなつかせる行動をする」＞、世話行動＜「おむつミルク」「ふろ着替えの世話」「自分のことより子の世話優先」＞、規制行動＜「子の言いなりにならない」「してはいけないことを教える」＞、知的刺激行動＜「子の興味関心を広げる」「子の疑問につき合う」「できたことをほめる」＞
総務庁青少年対策本部 1996 『子供と家族に関する 国際比較調査』	「平日に、子どもといっしょに何かをしたり、子どもの相手をしている時間は、平均すると、だいたいどのくらいになりますか。」（ほとんどない、15分くらい、30分くらい、1時間くらい、2時間くらい、3時間くらい、4時間くらい、5時間くらい、6～10時間くらい、11～15時間くらい、16時間くらい以上、わからない） 「あなたは、子どもとどのくらい話をしていますか。」（よく話をする、時々話をする、あまり話をしない、ほとんど話をしない、わからない） 「この中で、あなたが子どもとよく一緒にすることはどれですか。当てはまるものをいくつでもお選びください。」（「食事をする」、「衣服の世話をする」、「家事をする」、「入浴する」、「夜、同じ部屋で寝る」、「勉強を教えたり、本を読んだりする」、「テレビを見たり音楽を聞く」、「室内ゲームやおもちゃなどで遊ぶ」、「買い物に行く」、「散歩をしたり、公園などで遊ぶ」、「スポーツをする」、「その他」、「よく一緒にするものはない」、「わからない」）

これらから読み取れる父親の育児行為は、①一次的な世話に関する行為（入浴・食事の世話、幼稚園の送迎など）、②教育に関する行為（礼儀、しつけ、興味・関心の喚起など）、③遊びに関する行為（遊び、散歩など）、④家事行動（子どもと一緒に買い物に行く、子どもと一緒に食事の仕度をするなど）といった育児行為であり、調査・研究の上では、これらが父親の育児行為として捉えられてきたことがわかる。

(2) 政策の中での父親の育児行為

1999（平成11）年6月、男女共同参画社会基本法が成立した。これを受けて国においては男女共同参画社会基本計画が作成され、各自治体においては男女共同参画に関する基本的な条例が制定された。基本計画では、「職場・家庭・地域等における慣行の見直し」が挙げられ、「職場・家庭・地域等様々な場における慣行についても、性別による偏りにつながるおそれのあるものについて、広くその見直しを呼びかける。」としている（内閣府男女共同参画局　2001）。また、同年には、1991（平成3）年に施行された「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」（通称「育児・介護休業法」）が改定され、2002（平成14）年には、厚生労働省より提出された『少子化対策プラスワン』が政府により承認された。特に『少子化対策プラスワン』では、働きながら子どもを育てている人すべてのために、「男性を含めた働き方の見直し、多様な働き方の実現」や「仕事と子育ての両立」を目指し、子育て期間中の残業時間の短縮や父親の最低5日間の産後休暇の取得、男性の育児休業取得率10%を目標とすること等を挙げている。これらにより、父親に対しても育児休業を取得することやフレックスタイム制や深夜業の制限といった勤務時間の短縮等が制度上では可能となった。

また、1999（平成11）年に文部省（当時）は父親・母親の家庭教育を支援するため、『家庭教育手帳』・『家庭教育ノート』を作成し、配布を開始した。『家庭教育手帳』は、母子健康手帳の交付を受けるとき、1歳6か月児健康診査のとき、3歳児健康診査のとき、小学校入学前の健康診断のときに配布される。その内容は「家庭」「しつけ」「思いやり」「個性と夢」「遊び」に「記録編」を加えた6項目から構成され、乳幼児を持つ父親・母親への子育てのヒント集となっている。また、全国の小学校を通じて配布される『家庭教育ノート』は「家庭」「しつけ・子どもの非行」「家庭でのルール」「思いやり」「個性と夢」「ゆとり」の6項目から構成され、小・中学生の子どもを持つ父親・母親を対象としている[2)]。『家庭教育手帳』・『家庭教育ノート』ともに父親の育児について言及した部分は、「家庭」の中にあり、「子育ては母親の仕事、そう思っているお父さんは要注意。」として、父親には「基本的な考えは共有しつつも、母親とは違った視点で子育てに参加することで、密着しがちな母子関係を修正していく役割」があるとしている。

男女共同参画基本法からみられるように、父親の育児参加は女性の社会進出のための補助であり、同時に男性の「家庭進出」である。この「家庭進出」は労働時間の短縮、フレックスタイム制の導入あるいは育児・介護休業法にみられるように育児休業の取得といった働き方の見直しによって職場外で過ごす時間を作ることに始まり、家庭においては「基本的な考えは共有しつつも、母親とは

違った視点で子育てに参加することで、密着しがちな母子関係を修正していく役割」を父親が担うことを期待している。このようなことから、政策の中で父親に求められている育児行為は、父親が家庭の中で過ごす時間の創出と家庭の中で父親が母親を支え、また母親とは違った役割を持つことであるといえよう。

(3) 育児雑誌の中にみられる父親の育児行為

最後に、父親・母親がどのような行為を父親の育児行為として考えているのかを、広範な読者を持つ育児雑誌を基にみていく[3)]。

ベネッセコーポレーション発行の『ひよこクラブ』は、出生直後から1歳までの乳児を持つ母親を対象として1993（平成5）年に発刊され、このとき同時に妊娠中の母親を対象とした『たまごクラブ』も発刊された。1996（平成8）年には1歳から3歳程度の乳幼児を持つ母親を対象とした『たまひよ　こっこクラブ』も発刊され、現在発行されている育児雑誌の中ではベネッセコーポレーション発行のこの3誌が圧倒的なシェアを誇っている。本研究ではこのうち『ひよこクラブ』、『たまひよ　こっこクラブ』の記事の中から、父親の育児行為について言及している記事を用いて、育児雑誌の中で父親の育児行為がどのような行為であると捉えられているのかをみていく。

「表2　雑誌記事の中にみられる育児行為」は、2001（平成13）年1月から2002（平成14）年12月の2年間にかけて『ひよこクラブ』・『たまひよ　こっこクラブ』に掲載された記事の中から、父親の育児に関して特集した記事を選択し、その中で父親が行った育児行為、父親に期待される育児行為を抽出したものである。

ここで抽出された父親の育児行為は、①一次的な世話に関する行為（食事の世話（ミルクを作り飲ませる、離乳食を作り与えるなど）、オムツの交換、寝かしつけ、入浴、泣いている子どもをあやすなど）、②教育に関する行為（誉めたり叱ったりといったしつけなど）、③遊びに関する行為（子どもの遊び相手など）、④母親の支援者としての行為（母親の相談相手になる、母親を休ませる、母親の話を聞く、母親の理解者となるなど）、⑤家事行動（休日の家事手伝い）、⑥その他の育児に関する行為（育児書を読む、家族の交流を大切にする、子どものこと（その日の様子・興味・関心・嗜好）を知るまたは知る努力をするなど）であった。

①調査・研究において父親の育児行為がどのように捉えられてきたのか、②政策において父親にどのような育児行為が期待されているのか、③母親・父親がどのような行為を育児行為と考えているのかという3つの視点から父親の育児行為をみてきたが、これら三者にはそれぞれ特徴がみられた。調査・研究の中で捉えられてきた父親の育児行為は父子間の接触を重視している。これに対して政策の中においては、父親にその役割があることは強調するが、それは抽象的なレベルにとどまり、父親が家庭の中において過ごす時間の創出に重点が置かれている。父親の育児行為について最も具体的で、多岐に渡った言及を行うのが育児雑誌である。育児雑誌の中にみられた父親の育児行為は、父子の直接的な接触を伴った育児行為だけでなく、母親の支援者となる行為といった父子の

表２　雑誌記事の中にみられる育児行為

雑誌名	記事概要	
【ひよこクラブ】２００２年８月号別冊付録『育児の手助けパパBook』	＜記事タイトル＞「パパのお留守番ドキュメント」	
	記事内容	読者の夫（父親）が一人で赤ちゃんと一緒に家で留守番する様子を「ミルクの作り方＆飲ませ方」「おむつ替え」「遊び」「離乳食の与え方」「着替え」「寝かしつけ」に分けてリポートし、それに対して育児経験のある父親（「達人パパ」）がアドバイスをする。
	父親が行った育児行為	ミルクを作り飲ませる、おむつ替え、子どもと遊ぶ、離乳食を作り与える、着替え、子どもを寝かしつける
	備　考	・「遊び」については、特に「パパにしかできないダイナミックな遊び」を紹介している。
	＜記事タイトル＞「ひよこパパ白書2002」	
	記事内容	年齢、育児行為、仕事などについて読者の夫に対するアンケートの結果を発表。また、夫婦のコミュニケーションやサポート、父親へのインタビュー、育児経験者からのメッセージを掲載。
	父親が行った育児行為	・「いつもしている育児」…お風呂に入れる、おむつ替え、一緒に遊ぶ、ミルクを飲ませる、おっぱいを飲ませる・離乳食を作る以外はすべて ・「苦手な育児」…寝かしつける、離乳食を食べさせる、泣いているのをあやす ・赤ちゃんと２人だけでお留守番をする ・「グッドコミュニケーション編」…ママをイライラ＆心配させないために遅くなるときは電話やメールで連絡を入れる、仕事の合間や休憩時間に母親とメールや電話で連絡をとって子どもの様子を知る、赤ちゃんのことについて父親母親２人で調べたり話し合ったりする、早起きして出勤前に子どもと触れ合うようにする ・「ナイスサポート編」…父親だからできる母親へのサポートを提示している。 例）休日だからといって自分のために時間と使うのではなく、母親が家事をしている間だけでも赤ちゃんの世話をする、あるいは、母親が赤ちゃんの世話をしている間にちょっとした家事をする。母親を休ませてあげたり、母親にマッサージをしてあげる。気分転換に母親を外出させてあげて、赤ちゃんの面倒をみる。等 ・「うちのパパの育児っぷり」…夜泣きした子どもをあやす、育児書を読む
	備　考	・「２人きりの時間も大切に…」として、赤ちゃんを寝かしつけた後や赤ちゃんを祖父母や保育園に預けるなどして、夫婦二人の時間を作るように、また、意見の食い違うとき、不平不満があるときには思い切ってぶつかることも大切だとしている。
【ひよこクラブ】２００２年11月号別冊付録「赤ちゃん力を伸ばしてあげようBook」	＜記事タイトル＞「パパのかかわり方」	
	記事内容	赤ちゃんとの関わり、母親との関係、赤ちゃんとの遊び方について「パパなりのかかわり方」を解説。
	父親が行った育児行為	・「パパへの信頼感は、赤ちゃん時代からの積み重ねがあってこそ生まれるもの」…育児で迷いや不安があってもたくさん赤ちゃんと接することが大切で、健全な親子関係を形成するため、子どもが小さなうちからかかわることは重要。 ・「赤ちゃんとかかわる時間は工夫しだいで作りだせるはず。」…毎日忙しくて赤ちゃんと遊ぶ時間がないとはいわずに、毎日は無理でも週の内何日かは子どものために早く帰宅する、あるいは、お風呂だけは父親が入れる、というように父親の役割を決める。休日には父親のストレス解消法の中で赤ちゃんと一緒にできることをさがしてみる。どうしても時間のないときには携帯電話のメールや置き手紙を利用して母親に赤ちゃんの様子を聞くようにする。 ・「家族の絆を深めるためにはママへのサポートが大切です」…母親にとって父親はよき理解者であってほしいものであり、父親は母親が気持ちよく育児できるようにサポートする必要がある。母親の話を聞くなどちょっとした気遣いが母親にとってはうれしいものとなる。
	備　考	・「パパへの信頼…」の項目では、また、他にも、育児は父親自身が成長できる絶好のチャンスであり、大きくなってから、今は母親に任せておけばいいと考えるのではなく、母親と一緒に育てていこうという意識を持つことが必要であると指摘している。 ・「赤ちゃんの心をギュッとつかむ㊙遊び方テク」…父親自身が楽しんで遊ぶ。慣れるまで時間をかけて遊ぶ。家にあるものを使って遊ぶ。父親らしく思い切って遊ぶ。

雑誌名	記事概要	
『たまひよ こっこクラブ』2001年11月号 115-121頁	<記事タイトル>「ママのオアシス　月刊パパ新聞」	
	記事内容	読者の投稿の中から父親に対する不満を新聞記事風にまとめて掲載。
	父親が行った育児行為	・「育児放棄宣言　ゲーム機・タバコetc. けっして離さず」…（ゲームの邪魔をした２才の息子を本気で怒る父親に対して）ゲームに向ける熱意を息子と母親に向けて欲しい。（自分の趣味を優先する父親に対して）家族の交流を大切にして欲しい。 ・「主婦業交代89.9%賛成」…「夫は育児の現状をわかっていない」として、①仕事をしている自分のほうが偉いと勘違いしている父親が多い、②２人の子どもなのだから父親も育児に参加するべき、③主婦業・育児業は24時間体制で休みもなし、転職もできないということをもっと理解して欲しい。 ・「専業主婦はらくという考え横行中！」…「仕事が忙しい」「男だから」「休日くらいゆっくりさせてくれ」「家事・育児は母親の仕事」と言い訳して、家事・育児のほとんどをやらない。母親を気遣うことを忘れてしまっている。育児は２人の共同作業のはずなのに、子どもがどんなに夜泣きしてもピクリとも反応しない。 ・「こんなの育児参加じゃない。『嫌なことはママ』という誤った姿勢」…オムツを替えるのはおしっこのときだけで、うんちのときはオムツ替えをしない。子どもの機嫌が悪くなると母親に任せる、子どもの相手をするなら最後まで相手をして欲しい。子どもの世話の仕方を知らない。 ・「ウイークデー裁判風」…休みの日は一日中寝ているかごろごろしている父親に対して、家事を手伝ったり、子どもと遊んで欲しい。家事全般が全くできない父親に対して、普段からもっと関心を持ってもう少し家事ができるようになって欲しい。 ・「将来が不安…。『パパの脱力エピソード５連発』」…子どもの世話の仕方・子どもとの遊び方・子どもの好みを知らない。
	備　考	本記事は母親の不満であるので、下線部が父親に対して求められる育児行為と考えられる。
『たまひよ こっこクラブ』2002年8月号 86-94頁	<記事タイトル>「配当つくほど株上げろ!!　パパの育児虎の巻夏休み特別講座」	
	記事内容	普段子どもと接する機会の少ない父親が夏休み（＝まとまった休暇）に子どもと積極的にコミュニケーションがとれるように男性保育士がアドバイスをする。父親ならではの育児の悩み（「かかわる時間が少なくて、子どもがなついてくれない」「泣き続けられるとどうあやしていいかわからない」「どうしてもママじゃないとイヤなときがあるのが寂しい」「ママが怒りすぎていると思っても、仲裁に入れない」「ママのストレスを上手に解消してあげられない」「ほかの子ができることを、うちの子ができないとあせってしまう」「自分の時間が持てないのがつらい」）に対して回答する前半と父親のための「子育て教室」の後半に分かれる。
	父親が行った育児行為	・「パパならではの育児の悩みＱ＆Ａ」…関わりを持ちたいという気持ちがあれば子どもに伝わる。父子の絆を作るのに一番大事な時期なので、時間を大切にする。子どもが興味を持っているものを知れば、子どもが安心するものが見つかるはずなので、泣いてどうしようもないときには気分転換を子どもにさせられる。父親ではないと子どもが嫌がるときも必ずあるので、「父親ではないと嫌」なものを見つけて。母親が怒りすぎているときは、仲裁に入るのではなく母親の気分転換を図る。母親のストレスを解消するために、母親をいたわる気持ちを言葉にして伝え、母親の話を聞く時間を持つこと。親になる選択をしたのだから、親になりきる。時間がとりたい時は夫婦でうまく時間のやり繰りをする。 ・「パパのための簡単子育て教室」…遊ぶ。食事や寝かしつけといった世話をする。叱ったり誉めたりといったしつけをする。子どもと一緒に出かけたり、母親の話を聞くといった母親への気遣いをもつ。
	備　考	「パパを変えたいと思ったら、まずママ自身が変わろう！」として母親に対するアドバイスも行っている。 ①母親１人で背負い込まずに、夫婦２人の子どもなのだから、父親も母親と同じように子どもにかかわり、子育てに悩むことが親としての義務。仕事を持つからといって父親に遠慮し過ぎない。 ②いつも上手にこなしている母親のようにできなくても、父親に任せたことは頼りなく感じても見守る。 ③だらだらしている父親を責めるのではなく、母親もメリハリの利いた生活をする。

接触を伴わない行為や「知る努力」といった父親の育児に対する心構えといった点にも言及しており調査・研究の上で捉えられてきた育児よりもより多岐に渡っている。

このような点を踏まえて、本研究では、父親の育児行為を「父親が子どもの成長・発達のために行う行為」とし、世話やしつけといった直接的に子どもと接触する行為だけでなく、母親と育児について話し合うことや子どもの成長・発達の環境を整えるために経済的活動を行うこと等といった、子どもとの直接的接触を伴わない行為も育児行為に含めることとする。

Ⅲ. 調査方法

調査の対象は、幼稚園児または保育園児をもつ父親及び母親とし、福岡市内の幼稚園5ヶ所と保育園4ヶ所とにおいて調査を行った。調査期間は、2003（平成15）年12月上旬から中旬である。調査票の配布及び回収は、園児を通して行った。回収された調査票は、1316組の配布に対して824組であり、回収率は62.6%であった。

父親の育児行為については抽出された 1) 一次的な世話に関する行為（入浴・食事の世話、幼稚園の送迎など）、2) 教育に関する行為（礼儀、しつけ、興味・関心の喚起など）、3) 遊びに関する行為（遊び、散歩など）、4) 母親の支援者としての行為（母親の相談相手になる、留守時に子守りなど）、5) 家事行動（買い物、食事の仕度など）、6) 育児書を読む、家族の交流を大切にするといったその他の行為、の6分野の中から 5) 家事行動を除いて5分野を父親の育児行為として想定し、これを22種類の具体的な行動に置き換えて、これらの中から父親・母親が「父親の育児」と考えているものを複数選択してもらう形式をとった[4]。

Ⅳ. 調査結果の分析

(1) 調査対象者の属性

表3は父親と母親の年齢をみたものである。父親の年齢は30歳代から40歳代前半に集中し、30歳代後半のものが最も多くなっていた。それに対して母親も30歳代後半が最も多くなっているが、30歳代前半の者が36.6%と、父親よりはやや若い年齢の母親が多くなっていた。表4は父親と母親の年齢差をみたものであるが、同年齢、あるいは5歳程度の年齢差の夫婦が多くを占め、夫婦間の年齢差はほとんどみられなかった。

表5は父親の職業を、表6は母親の職業をみたものである。父親の職業としては、フルタイムの仕事が最も多く、母親は専業主婦が最も多くなっていた。また、表7は父親の勤務時間についてであるが、10時間以上12時間以下勤務している者が最も多く、13時間以上15時間以下勤務している者が17.0%、16時間以上勤務している者でも11.7%と、かなりの長時間にわたって仕事をしている父親が多くなっていた。

表3　父親・母親の年齢

(%)

		19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50歳以上
父親	幼稚園(613)	–	0.2	2.0	24.3	41.3	24.3	6.4	1.5
	保育園(156)	–	1.9	13.5	25.6	35.3	17.3	5.8	0.6
	全体(769)	–	0.5	4.3	24.6	40.2	22.9	6.2	1.3
母親	幼稚園(645)	0.5	0.2	5.6	36.0	45.6	11.2	0.9	–
	保育園(166)	–	3.0	15.1	39.2	32.5	9.0	0.6	0.6
	全体(811)	0.4	0.7	7.5	36.6	43.1	10.7	0.9	0.1

(無回答、不明は除く。括弧内は実数。以下同様。)

表4　父親の年齢と母親の年齢

(%　N=611)

		母親の年齢						
		19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
父親の年齢	20～24歳	–	–	0.2	–	–	–	–
	25～29歳	–	–	0.8	0.5	0.3	0.2	–
	30～34歳	0.2	–	3.8	15.7	3.8	0.8	–
	35～39歳	–	0.2	–	15.5	24.3	1.3	0.2
	40～44歳	–	–	0.5	4.4	13.3	5.9	0.3
	45～49歳	–	–	–	0.7	3.6	2.0	0.2
	50歳以上	–	–	–	0.2	0.5	0.7	0.8

(網掛け部分は10歳以上の年齢差がある父親・母親。)

表5　父親の職業

(%)

	フルタイムの仕事	自営業・自由業	パートタイムの仕事	無職	その他
幼稚園(600)	86.4	11.0	0.2	0.2	2.2
保育園(152)	77.6	19.1	0.7	–	2.6
全体(752)	84.7	12.6	0.3	0.1	2.3

表6　母親の職業

(%)

	主婦	フルタイムの仕事	自営業・自由業	パートタイムの仕事	その他
幼稚園(638)	81.0	2.4	3.9	10.8	1.9
保育園(163)	5.5	35.6	9.2	48.5	1.2
全体(801)	65.7	9.1	5.0	18.5	1.7

表7　父親の勤務時間

(%)

	6時間以下	7時間以上 9時間以下	10時間以上 12時間以下	13時間以上 15時間以下	16時間以下
幼稚園(654)	1.8	15.0	54.8	18.0	10.4
保育園(170)	1.8	22.9	45.9	12.9	16.5
全体(824)	1.8	16.6	52.9	17.0	11.7

(2) 父親・母親の考える父親の育児行為

表8は父親の考える父親の育児行為をみたものであるが、8割以上の父親が、父親の育児行為としてあげているのは、「子どもが悪いことをしたときにしかる」、「してはいけないことを子どもに教える」、「子どもと遊ぶ」、「できたことを褒める」、「家庭を経済的に支える」といった遊びや教育に関する行為で、一次的な世話に関する行為については「子どもと一緒にお風呂に入る」を除いては、あまり選択されておらず、父親の育児行為であると考えている父親は比較的少なくなっていた。遊びに関する行為や教育に関する行為は多くの父親が父親の育児行為であると考えているが、一次的な世話に関する行為についてはあまり父親の育児行為とは考えられていなかった。幼稚園の父親・保育園の父親を比較すると、一次的な世話や母親の支援者としての行為については保育園の父親の方が多く選択しており、幼稚園の父親に比べて保育園の父親の方が一次的世話に関する行為や母親の支援者としての行為を父親の育児行為として考えているものが多かった。

次に、表9は母親の考える父親の育児行為をみたものであるが、8割以上の母親が父親の育児行為として挙げているのが、「子どもと遊ぶ」、「子どもが悪いことをしたときに叱る」、「子どもと過ごす時間を作る」、「してはいけないことを子どもに教える」、「母親の育児を手助けする」、「母親の相談相手になる」、「できたことを誉める」、「家庭を経済的に支える」といった遊びや教育に関する行為、母親の支援者としての行為であった。一次的な世話に関する行為については「子どもと一緒にお風呂に入る」を除いては、他の育児行為に比べてあまり選択されていなかった。幼稚園の母親と保育園の母親を比べると、どの育児行為についても保育園の母親の方が多く選択しているが、特に一次的な世話に関する行為については保育園の母親の方が多く選択していた。

表8　父親の考える父親の育児行為（複数回答）

(%)

	一次的な世話に関する行為							
	子どものオムツを替える	子どもと一緒にお風呂に入る	子どもの食事の世話をする	幼稚園・保育園に送り迎えをする	病気の子どもを看病する	子どもを寝かしつける	子どもの着替えを手伝う	泣いている子どもをあやす
幼稚園(606)	47.2	77.2	37.6	27.3	55.1	40.8	40.8	52.0
保育園(154)	53.9	76.3	40.8	50.3	57.9	39.9	50.3	57.5
全体(760)	48.5	77.0	38.3	32.0	55.7	40.6	42.7	53.1

	母親の支援者としての行為			遊びに関する行為
	母親の育児を手助けする	母親の相談相手になる	母親のいない間、子どもと一緒にお留守番をする	子どもと遊ぶ
幼稚園(606)	77.4	74.8	75.2	87.1
保育園(154)	79.2	80.5	81.8	88.2
全体(760)	77.8	75.9	76.6	87.4

	教育に関する行為					
	してはいけないことを子どもに教える	子どもが悪いことをしたときに叱る	できたことを誉める	子どもの興味関心を広げる	子どもに本を読んであげる	幼稚園・保育園の行事に参加する
幼稚園(606)	89.3	90.3	83.5	76.9	51.9	60.3
保育園(154)	88.2	88.9	85.6	77.1	50.3	62.1
全体(760)	89.1	90.0	83.9	76.9	51.6	60.7

	子どもと過ごす時間を作る	子どものために仕事をがんばる	家庭を経済的に支える	育児書を読むなど育児について勉強する	その他
幼稚園(606)	77.5	74.3	79.8	26.9	3.5
保育園(154)	79.1	81.7	87.6	26.0	5.8
全体(760)	77.8	75.8	81.4	26.7	3.9

表9　母親の考える父親の育児行為（複数回答）

(%)

	一次的な世話に関する行為							
	子どものオムツを替える	子どもと一緒にお風呂に入る	子どもの食事の世話をする	幼稚園・保育園に送り迎えをする	病気の子どもを看病する	子どもを寝かしつける	子どもの着替えを手伝う	泣いている子どもをあやす
幼稚園(644)	43.6	74.3	34.1	24.7	41.3	33.5	32.6	51.1
保育園(163)	61.3	81.6	51.2	58.9	57.1	49.7	56.8	67.5
全体(807)	47.2	75.8	37.5	31.6	44.5	36.8	37.5	54.4

	母親の支援者としての行為			遊びに関する行為
	母親の育児を手助けする	母親の相談相手になる	母親のいない間、子どもと一緒にお留守番をする	子どもと遊ぶ
幼稚園(644)	87.1	85.7	75.2	90.0
保育園(163)	90.2	87.7	82.2	92.6
全体(807)	87.7	86.1	76.6	90.5

	教育に関する行為					
	してはいけないことを子どもに教える	子どもが悪いことをしたときに叱る	できたことを誉める	子どもの興味関心を広げる	子どもに本を読んであげる	幼稚園・保育園の行事に参加する
幼稚園(644)	88.0	89.8	82.1	78.3	51.2	64.4
保育園(163)	87.0	93.3	88.3	82.2	58.3	76.7
全体(807)	87.8	90.5	83.4	79.1	52.7	66.9

	子どもと過ごす時間を作る	子どものために仕事をがんばる	家庭を経済的に支える	育児書を読むなど育児について勉強する	その他
幼稚園(644)	89.1	72.7	80.4	25.3	2.0
保育園(163)	89.6	77.3	87.1	34.4	4.9
全体(807)	89.2	73.6	81.8	27.1	2.6

幼稚園児の父親・母親に比べて、一次的な世話に関する行為や母親の支援者としての行為については保育園児の父親・母親の方が父親の育児と考えているものの割合が高くなっていたが、それら以外の育児行為については幼稚園・保育園であまり差はみられなかった。全体的にみて、父親も母親も共に一次的な世話に関する行為については他の育児行為に比べて選択している割合が低く、遊びや教育に関する行為に関しては選択している割合が高い。しかし、母親の支援者としての行為については母親の方が選択している割合が高く、母親が父親の育児行為として考えている程には父親はあまり重視していないことがわかる。

このようなことから、一次的な世話に関する行為については父親・母親ともに他の育児行為に比べてあまり重視していない。父親が重視しているのは遊びに関する行為や教育に関する行為であり、母親はそれに加えて母親の支援者としての行為を重視していると言えよう。

V. 要約と結論

本研究は、どのような育児行為が父親の育児行為と考えられているのかを明らかにすることを目的とし、父親の育児行為を①過去の研究において研究者が父親の育児行為をどのように調査してきたか、②政策の中において父親に対してどのような育児行為が期待されているのか、③育児雑誌の中でどのような行為が育児と考えられているのか、という3つの視点から捉え、幼稚園児・保育園児をもつ父親・母親を対象に調査を行った。調査結果の分析を要約的にまとめると次のようになる。

・＜父親の考える父親の育児行為＞

父親が考える父親の育児行為は、主に教育に関する行為や遊びに関する行為、家庭を経済的に支えることであり、一次的な世話に関する行為は子どもをお風呂に入れること以外はあまり父親の育児行為であると考えられていない。

・＜母親の考える父親の育児行為＞

それに対して母親は、教育に関する行為や遊びに関する行為、母親の支援者としての行為を父親の育児行為であると考えている。一次的な世話に関しては、父親同様、子どもをお風呂に入れること以外はあまり父親の育児行為とは考えていない。

従来の研究で父親の育児行為として挙げられてきた一次的な世話については、実際に父親・母親が考える育児行為としては妥当しなかった。一次的な世話よりもむしろ、父親が考えているのは遊びや教育に関する育児行為であり、母親が挙げているのはこれらに加えて母親の支援者としての行為である。父親の育児参加というとき、それは主に一次的な世話に関する育児行為への参加を指している。しかし、父親はそれを父親の育児とはあまり考えていなかった。本研究が明らかにしたように、父親の考える育児行為は、従来捉えられてきた育児行為よりもより多岐に渡っていた。従って、父親の育児参加に関する研究を行うとき、父親の育児参加を母親の育児と同様の指標をもって測るのではなく、父親独自の育児行為の指標というものを改めて考える必要があるといえるのでは

ないだろうか。

特に、仕事と育児についてである。本研究では、父親の育児行為として「子どものために仕事をがんばる」、「家庭を経済的に支える」といった仕事に関する行為も父親の育児行為として含めた。育児に参加しない父親像として「仕事に忙しく、育児に関わることのない父親」の姿がよく言われるが、父親本人の意識の上では本当に育児に参加していないのだろうか。育児を直接子どもと関わる行為に限定したとき、このような父親は育児に参加していないことになる。しかし、父親の生活において仕事は重要な位置を占めており、育児とも分離して考えることはできないだろう。仕事と育児は競合する関係にあるのか、並立する関係にあるのか、仕事と育児の関係を父親自身がどのように考えているのかについても解明する必要がある。

一次的な世話に関する育児行為のうち、子どもをお風呂に入れることは父親・母親ともに多くの人々が父親の育児行為であると考えていた。これは、その他の一次的な世話に関する育児行為があまり父親の育児行為とは捉えられていなかったことと対照的であった。子どもの入浴の世話は、それ以外の一次的な世話に関わる育児行為と異なり、大人の都合によりコントロールすることが可能な行為であるといえる。多忙な父親でも関わりやすい育児行為であるため、父親も母親もそこに父親の役割を見い出しやすいのではないかと考えられる。

また、母親は父親の育児行為として母親の支援者としての行為を挙げているが、父親はこれを父親の育児行為としてはあまり考えていない。つまり、父親が考える父親の育児行為と母親の考える父親の育児行為の間でずれがみられた。父親の育児参加のあり方に対する母親の悩みや不満といったものがよく話題にされる（朝日新聞社　2000）が、このような父親・母親の間の、父親の育児行為に関する意識の相違が母親の父親の育児参加に対する不満感につながっている可能性があるのではないだろうか。

〈注〉

（1）具体的には、扶養とは子どもの成長に必要な経済的資源を供給すること、社会化とは子どもが文化・社会規範を学びつつ、価値観・行動様式を確立していくのを支援すること、世話とは食事の世話や看病などといった子どもにできないことを援助すること、を指す。

（2）『家庭教育手帳』は小学生を持つ父親・母親を対象としているが、ここでも「育児」という表現が用いられている。一般に育児というときは就学前の子どもの養育を指すが、「育児」という表現が用いられていることから、本研究では父親の育児行為を捉える上で『家庭教育手帳』の内容も対象とした。

（3）育児雑誌の他にも、父親・母親が考える育児行為を捉えるには父親によって書かれた育児体験記や父親向けに執筆された育児書がある。しかし、父親によってかかれた育児体験記は、父子家庭の父親によって執筆されたもの（重川　1990）、自由業の父親によってかかれたもの（鈴木　2000）、研究者自身によってかかれたもの（広岡　1990）といった図書であり、

これらは、いわば、「特殊」な事例であり、一般的な父親の事情には見合わない点が含まれていると考えられる。また、父親向けに執筆された育児書は、研究者がその研究成果あるいは自身の経験を基に執筆したものであり、これは (1) 育児行為に関する調査・研究において網羅されたと考える。

(4) 22種類の具体的な育児行為は次のとおりである。

1) 一次的な世話に関する行為

子どものオムツを替える、子どもと一緒にお風呂に入る、子どもの食事の世話をする、幼稚園・保育園に送り迎えをする、病気の子どもを看病する、子どもを寝かしつける、子どもの着替えを手伝う、泣いている子どもをあやす

2) 教育に関する行為

してはいけないことを子どもに教える、できたことを誉める、子どもの興味関心を広げる、子どもに本を読んであげる、幼稚園・保育園の行事に参加する、子どもが悪いことをしたときに叱る

3) 遊びに関する行為

子どもと遊ぶ

4) 母親の支援者としての行為

母親の育児を手助けする、母親の相談相手になる、母親のいない間子どもと一緒にお留守番をする

5) その他

子どもと過ごす時間を作る、子どものために仕事をがんばる、家庭を経済的に支える、育児書を読むなど育児について勉強する

＜参考文献＞

『AERA』「育児ストレス－父親が子育てに関わるのが当たり前の時代に」1999年4月12日号　朝日新聞社

土谷みち子　1992「父親の生活実態と父子のかかわりについて」『家庭教育研究所紀要』No.14 pp.108-116

舩橋惠子　1996「父親の現在－ひらかれた父親論へ－」渡邊秀樹編『変容する家族と子ども』教育出版　pp.85-105

林道義　1996　『父性の復権』中央公論社

『ひよこクラブ　2002年8月号別冊付録育児の手助けパパBook』ベネッセコーポレーション

『ひよこクラブ　2002年11月号別冊付録赤ちゃん力を伸ばしてあげようBook』ベネッセコーポレーション

広岡守穂　1990『男だって子育て』岩波書店
牧野カツコ・中野由美子・柏木惠子編　1996『子どもの発達と父親の役割』ミネルヴァ書房
文部省　1999『家庭教育ノート』 大蔵省印刷局
文部省　1999『家庭教育手帳』 大蔵省印刷局
内閣府男女共同参画局　2001『男女共同基本計画』　財務省印刷局
中野由美子　1992「3歳児の発達と父子関係」『家庭教育研究所紀要』No.14　pp.124-129
大日向雅美・新道幸恵　1994 「父親の育児参加」 高野陽・大日向雅美ほか編『父性の発達』家政教育社　pp.65-88
『臨時増刊AERA　子育ては損か？』2000年12月15日号　朝日新聞社
重川治樹　1990『シングル・ペアレント＜男の家事・おとこの変革＞』 光雲社
鈴木光司　2000『父性の誕生』 角川書店
総務庁青少年対策本部編　1996 『子供と家族に関する国際比較調査』大蔵省印刷局
『たまひよ　こっこクラブ』2001年11月号　ベネッセコーポレーション
『たまひよ　こっこクラブ』2002年8月号　ベネッセコーポレーション

A Study on Fathers' Participation in Child-rearing
−The Consciousness of Fathers' Actions−

Noriko YAMASE

The purpose of this paper is to make sure it clear what actions are considered as fathers' participation in child-rearing. I found out what actions were considered as fathers' participation in surveys, studies, policy and magazines about child-rearing. From the result, I made a survey for fathers and mothers who bring up their little children. The following facts were made clear from the result of the survey.

(1) Fathers considered the actions related to education, play and business as fathers' participation in child-rearing. Except for bathing a little child, they didn't consider the actions related to care as fathers' participation in child-rearing.

(2) Mothers considered the actions related to education, play and mothers' assistance as fathers' participation in child-rearing. Except for bathing a little child, they also didn't consider the actions related to care as fathers' participation in child-rearing.

According to the result of analysis, fathers and mothers didn't consider the actions related to care, which had been regarded as fathers' participation before, as fathers' participation in child-rearing. And the range of fathers' participation was wider than the one that had been considered before. Then, when we study fathers' participation in child-rearing, we have to measure the degree of fathers' participation not with the indicator of mothers' child-rearing but with the peculiar indicator of fathers' child-rearing.

And there was a difference between fathers and mothers in the view of fathers' participation. The difference between fathers and mothers may make mothers' dissatisfactions with fathers.